

第72次 教育研究集会報告書（自主研編）

おがさの教育



第72次 自主研夏季集会

開催日 2022年7月29日（金）

会場 生涯学習センター

小笠教育会館

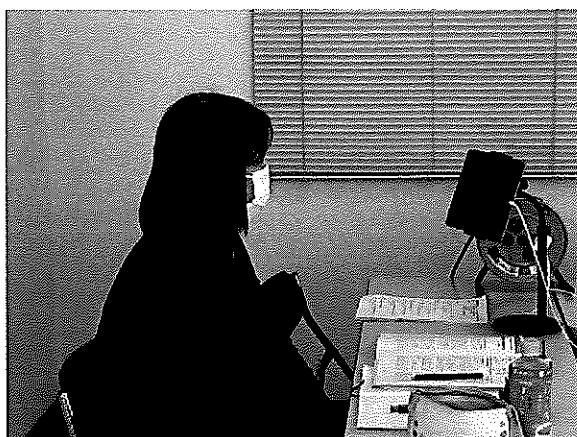
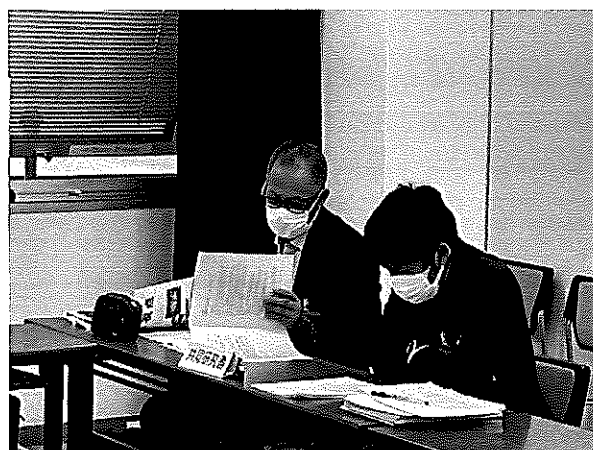
シオーネ

たまりーな

第72次 教育研究静岡県集会

開催日 2022年10月22日（土）

会場 静岡市内 民間施設



第72次 教育研究全国大会

開催日 2023年1月27日（金）

～29日（日）

会場 Zoom による開催



静岡教職員組合小笠支部編

1 参加者数 教職員（ 29 人）

一般（小・中教員以外）（ 人） 計（ 29 人）

2 話し合いの内容

① リポート発表（小学校・中学校）

森下清茂（上内田小）…1年生『くちばし』。文章と挿絵を丁寧に対応させることで、言葉の理解を支える。

佐々木愛莉（桜木小）…2年生『たんぽぽのちえ』。ループリックの活用で、到達目標を明確にする。

板倉末実（掛一小）…1人1台端末の活用で、「協働的な学び」を意識的に取り入れる授業づくり

伊藤慎悟（西山口小）…5年生『大造じいさんとガン』。児童が主体的に学習に取り組む単元づくりについて。

犬塚祐貴（御一小）…6年生『帰り道』。クロームブックを効果的に使い、人物像を多面的に想像して読む。

大村友佑（掛北中）…生徒が主体的に考えられるような課題の設定によって話し合いを深める。

松永光平（大浜中）…副教材を活用することで伝え合いのきっかけをつくり、比較によって考えが深める。

山本若奈（栄川中）…深めた考えを他者と共有したいという気持ちを育てる「学び合い」の授業の実践。

一瀬有記（浜岡中）…3年生『俳句』。『学び合い』を理念とした校内研修と国語科とのつながり。

石野裕子（掛西中）…推敲によって俳句にどんな違いが生まれるのかを理解し、俳句作りにつなげる。

② 小グループでの話し合い内容

- ・実践発表（話題提供）を聞いて思ったこと、自分の実践と比べて
- ・日頃の国語科の授業で感じていることや、課題の共有
- ・小学校（中学校）の教員に尋ねてみたいこと、教えてもらいたいことなど
- ・小学校から中学校へのつながり、小学校のうちにつけさせておきたい力

1 参加者数 教職員 (16 人)

一般(小・中教員以外) (人) 計 (人)

2 話し合いの内容

(発表①)中野亜美先生(掛一小)

ICTをなるべく効果的に活用し、楽しい授業を

1人1台端末の活用

<こどもの“伝えたい”を引き出すスモールトーク>

児童に伝えたいことを尋ねる

①単元の導入「教師とのやりとり」

- 新出表現に繰り返し触れられる
- 間違いを自然に言い直すことができる

②単元の途中「子ども同士のやりとり」

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| -Greeting | What did you eat? |
| Reaction | →会話の後、ひとつずつ振り返りをする |
| Question | どんな質問ができましたか?聞く |
| Addition | 他に、どんなことを伝えられるかな?ペアを変えてもう一度やる方法も |

毎回の振り返りシートに、Questionnaire や Addition の項目を付け加える

(発表②)千葉美加子先生(掛東中)

(1)帯活動

東中型ギガスクールの実現

ICTを使い、協働的な学びや個別最適な学び

英語科テーマ→魅力的な問いを設定する、自分ごととして英語を使うことができる生徒を育てる

<Word Game> 書かれた単語を言わずに、当てさせたらミッションクリア!

既習事項を説明する。普段は、3分間で全員クリアすることができるか、トライしている

<Mika-Tore> 規定範囲の単語を何秒で発言できるか

つづりと音声のリンク

<Practice Pronunciation> 教科書の本文をタブレットで録音する(メモ機能の音声入力)

発音の違い、気付きが生まれる。RとLの発音の違いの練習

<Speaking> 話しやすい課題で、コミュニケーションを図る

<Shiritori> 英語でしりとり、グループで短時間でいくつの単語がつながるか、書き、最後にスペルの確認をする

(2)タスクベースドラッシング

スピーチを行うために、各ユニットを練習していく

教科書のQRコードを使って、各自発音の確認をする(自由進度の学習が多い)

社会科教育

分科会

報告者(記録者) 天野 優太郎

1 参加者数 教職員 (33 人)

一般(小・中教員以外) (0 人) 計 (33 人)

2 話し合いの内容

<p>1. 前島 康志先生 千歳小 <社会的な見方考え方を深める～6年生の実践～> 10:06～ (ヤトを作る) 暗記→意味を考える(歴史が楽しくなる) 知識情報を与えることで見方考え方が変わる</p>
<p>Q 教材研究の取り組み方は? ヤトを作る、教材をためておく。見産の事態に応じて必要な情報を発掘して取り扱う。 動画は特に効果的である。</p>
<p>2. 角皆 智史先生 横地小、^{大陸から学んだ園らう} <先人が三方よしと学び、自ら樹木を植えるが幸にもな学校づくりの政策を考えよう> 10:40～ ◎ スライドでポスターを作成する。 ◎ 丸7の話し合いの時間を確保する。質問を通して学びが深まる。 ◎ 学んだことを生活に生かす。 ↳用語の理解定着が弱くなってしまう。 △新聞作り(ガクンスライド) 見産により取り組みの差が表れた。</p>
<p>3. 富井 一仁先生 菊東中 <国や地方公共団体の政治の仕組み> 支援課訪問 10:47～10:54 江戸時代と現代の裁判の違いを比べる。 <u>えん罪</u>について触れる → 何のためにえん罪が起さないと仕組みが着入これたのE3う。 Q 反転学習のメリット・デメリットは? ○ 鞏固に言葉を調べる。 △言葉の読み方が分からない。→ 範読動画と配信 Q 感想 業者テストでは、授業のやり方とずれがある。テストだけで評価するのが難しい。 穴うめだけでは評価されない部分も大切である。</p>

数学分科会

報告者（記録者） 坂野実乃里

- 1 参加者数 教職員（12人）
 一般（小・中教員以外）（0人） 計（12人）
- 2 話し合いの内容

○掛川市大淵小学校 佐藤仁美先生〈一年生での実践〉

・掛川市の小中一貫教育の資料の中には、問題解決の過程が大切であることがかかれており、その中でも図や表で表し、それを利用する力は小中続けて行うことが大切であるとされている。

・「算数」の学びという枠にとらわれるのではなく、生活の一部という感覚が大切である。そのためには、実際にそれを経験する場面を創ることが大切。生活の場面を数学の世界に持ち込むために、図や表に表して場面把握をする力が必要である。

○学校組合立御前崎中学校 栗林溪先生「生きて働く資質・能力を育成する授業～主体的な学びを育む工夫～」

・『学びあい』とICTを利用し、他者と協働しながら対話を通して課題を解決する場面をつくっていく。

・『学びあい』とは、子ども観、授業観、学校観の3つの教育観に基づいて行うことである。

・『学びあい』を利用することで、上位生徒に対しては自ら新たな問いを見つけ、解決する力がつくという利点がある。下位生徒に対しては、聞きやすい生徒に質問することができるという利点がある。

・問い返しをすることも大切である。共有化を図る問い返しや焦点化を図る問い返しをすることによって、自分たちで答えを求めようと話し合う姿が増加する。

・『学びあい』によって、テストの合計得点が上がっており、特に思考力・判断力・表現力が身についている。

また、それらのテストでは、下位の生徒の合計点数の向上も見られた。

○小学校、中学校で分かれて先ほどの発表や最近の悩みについての共有

・『学びあい』について、コミュニケーションを取ることが苦手な子には、一人で取る組むことも可能にしている。

・『学びあい』を小学校でも取り入れたいが、中学校のように学びたいと思える児童がどれだけいるかが不安で、時間もなく、見取りも難しい。

1 参加者数 教職員 (30) 人

一般(小・中教員以外) () 人 計 () 人

2 話し合いの内容

菊川東中分会 八木先生

化学分野での見方・考え方は粒子概念を意識して授業を行うことが大切。

それを実現させるためには、目に見える現象と目に見えない現象をリンクさせることが大切。

イオンモデルと現象を関連づけて考えさせていきたい。
上記を実現するための手段として教具の工夫

① 冷たい水と温かい水にイオンをたらし
→ 様子を観察する

② 冷たい水と温かい水に角砂糖を入れる。
→ あたたかい方は粒子がぶっかき回るとわかる。

③ 水そうに石を投入おもりを入れる。
おもりを沈めるためには、水そうをふり、
石(リウシ)の運動をかくす。

イオンモデルを用いた表現や定量的な考えが身についた。
児童の主体性を高める課題設定を今後研究していきたい。

- 1 参加者数 教職員 (32 人)
一般(小・中教員以外) (0 人) 計 (32 人)

2 話し合いの内容

① リポーター実践発表

「プログラミング的思考と豊かな表現を育む図画工作」 掛川市立桜木小学校 高林由季先生

ICTを使った図画工作を通して、地域と人と繋がる取り組みについて。ICTを使うことで、「作る→考える→やり直す」を何度も簡単に行うことができるため、描くのが苦手な子も取り組みやすい。

教師の出番を減らし、子ども主体の授業にすることを図工でも意識して取り組んだ。基本的技法は指導するが、あとは自由に使う中で子供たちが自分で技を見つけていく。それをお互いに紹介し合うことで、子どもたちの発想から生まれた新たな技が集まる。子ども同士の繋がりができたため、思いを伝えあう場でも自然にお互いの表現や技法を認め合っていた。

推薦アプリ:「Biscuit (ビスケット)」「sketchbook」

② 実技研修 浜松市秋野不矩美術館館長 鈴木英司館長

「水彩画に活かせる技法～水彩絵の具の指導について～」

- ・先生が満足する作品作りから、子供自身が満足する作品に。自由に発想を広げる、表現することを様々な水彩画の技法を通して学ぶ。(ラッピング、ウォッシュ、リフティング、スパッタリングなど)
- ・ありのまま、生のままが素晴らしい。先生がゴールを決めなくてもよい。
- ・「先生これでいいですか？」子供が表現したいことを奪っている→指示待ち人間を育ててしまう。
- ・自分で意思決定できる子供を育てるための子ども主役の指導をめざす = 「～たい」のある授業

音楽教育分科会

報告者(記録者) 土田 真由美

1 参加者数 教職員 (20 人)

一般(小・中教員以外) (0 人) 計 (20 人)

2 話し合いの内容

(1)実践発表

発表1 六郷小分会 土田 「Jamboard を活用した音楽づくり ちょこっと紹介」第4学年

- ・「リズムでなかよくなろう」既存のリズム アイ を工夫→ 児童がオリジナルリズムをつくれるように Jamboard を活用。授業の様子や振り返りシートから音楽を形づくっている要素への気づきが見られた。

発表2 日坂小分会 諸星江里先生 「いろいろなリズムを感じ取ろう」第4学年

- ・発表1の発展「おまつりアンサンブル」 実際にクラスの児童がつくった「すばしっこい みけねこ」をみんなで打ってみる。音の響きを味わう。歌唱や器楽の教材を通して、毎時間音楽づくりを取り入れた。
- ・タブレットを活用して個人のリズムアンサンブルを録音。タブレットを使用することで、文字だけでなくリズムの様子まで相手に伝えることができる。録音したものを見合って「遊び疲れた感じにしたいから、速度を遅くしよう」とアンサンブルを工夫する様子が見られた。

(2) 鶴見先生の講話 「体をゆるめる呼吸法・発声・姿勢」「大切なもの 合唱」

- ・歌は西洋からきたものである。西洋の息の流れを覚えること。日本語は言葉をぶつぶつ切って話す言語であり、西洋とは異なる。毎日そのような生活を送っている。土台が違うということを子どもたちに伝えていくべき。体で理解すること。あいさつを裏声でやると良い。のどをあけたかたちで日々生活する。
- ・授業が始まってすぐに歌を歌う→できない。声帯が硬い状態では難しい。悪い姿勢で「かごめかごめ」を歌ってみる。次に良い姿勢で歌ってみる。声の出方が違う。いかに姿勢が大切か? 骨盤の位置を正しく。
- ・5分以内でできるドイツの呼吸法をひと通り実践。指導をするときは教師も一緒に楽しんじゃおうという気持ちがあっても大切。パート練習の方法を学び、最後全員で合唱。音の響きが美しくなった。

技術科教育

分科会

報告者(記録者)

栗田 昌幸

1 参加者数 教職員 (4) 人

一般(小・中教員以外) () 人 計 (4) 人

2 話し合いの内容

① 岡田先生の静教研究発表内容の確認

フロンティア型の視点を重視した技術の授業づくり

↑

現在ある資源やリソースを有効活用し無駄をなくす

エネルギー変換に関する授業の提案

LEDの光で栽培 & 発電シミュレータ

② 発電シミュレータの抜取 + 使い方検討

スプレッドシートでモーター動作確認OK!

記録係**第 72 次自主研夏季集会 分科会報告書****保健分科会**報告者(記録者) 小野 夏菜

1 参加者数 教職員 (25人)

2 話し合いの内容 (○…メリット ●…デメリット)

「学校の ICT 化進出により、養護教員としての執務の負担が減ったと感じているか。」

「オンライン研修を受けるための校内体制が整っているか。」

「学校の ICT 化が加速度的に進んでいますが、子どもたちの様子について心配していることはあるか。」

Aグループ

○アンケートの集計が楽になった。他校との連絡がスムーズになった。学校へ来られない子の支援として使える。

●他市との連絡はまだ課題あり。研修は場所の確保が必要。視力が悪くなったが数値としては分からない。来室記録から睡眠不足を感じる。

Bグループ

○アンケート集計が楽になった。家にいてもチャットで連絡できる。保健指導をリモートでできる。

●アプリを使う頻度が少ないので、中々覚えられない。保健室の環境 (Wi-Fi など) が整っていない。iPad の持ち帰りにより、自分のスマホ等に授業の様子などのデータが移される心配がある。

Cグループ

○アンケート集計が楽になった。保健室にいながら、職員への報告ができる。

●使い方を覚えるのが大変。すぐ対処できない。研修が受けやすくなったが、まだ環境が整っていない。来室者への対応が整っていない。夜遅くまでゲームをしている。保護者も止められない。SNS によるトラブル、ネットで知り合った人と会っている。

Dグループ

○アンケート集計が楽になった。欠席連絡把握しやすい。委員会でも活用できている。保健指導もいつでもどこでもできる。

●会議の時に iPad にしているので全て PDF にするのが面倒。保健室に Wi-Fi がない。ICT の講座は教員向けで養護教諭向けない。PC にカメラがない。メディア依存。学校には間に合うが、朝食抜き。LINE などのトラブル。モラルへの指導が必要。

Eグループ

○アンケート集計、楽になったがアンケートが増えている。クラスルーム等を使って委員会活用できる。出張に行くための時間のロスが無くなった。

●市外への先生への連絡。新しいことなのでやり方を覚えるのが大変。保健室でやっている、緊急と書いて来室がある。ネットの環境が不安定。オンラインは時間が決まっていると良いが、オンデマンドになると時間の確保が難しい。視力は日常ではあまり感じないが、数字を見ると下がっている。ICT への依存が心配。休み時間にタブレットに向かっている子供がいる。緊急事態宣言の時にタブレットを使って距離をとっていた影響が残っている。不登校の増加。

体育

分科会

報告者（記録者）

増田帆南

1 参加者数 教職員（ 12 人）

一般（小・中教員以外）（ 0 人） 計（ 12 人）

2 話し合いの内容

①掛川市立桜木小学校 坪田晃輝

単元：陸上競技【短距離走・リレー】運動能力や思考力を高める対話を中心とした体育授業実践について。

リレーの運動特性や楽しさ、喜びを味合わせる導入を行った。授業実践では、3つのポイントを中心に行った。

実践① 2人でのコミュニケーション力を高める。実践② 形を伝え合う。実践③ 歩幅の確認。

【成果】○毎時間、ペアと話し合いながら記録を縮めようとする児童の様子が見られた。

○話し合う視点を与えることで、本時の動きに迫る対話を行うことができた。

○8割の児童が記録を縮めることができた。

○授業内で話したこと、次の授業でペアに伝えたことを自主学习ノートにまとめている児童もいた。

【課題】△子ども同士の対話だけでは運動技能が身につかないペアもあった。

△ICTの活用が少なかった。

②掛川市立西郷小学校 甲賀美奈子

「第1学年、表現遊びにおけるJamboard使用の活動実践」「第2学年、リレー遊びにおける」

③掛川市立東中学校 河西奏恵 掛川市立西中学校 増田帆南

「第1学年、見る視点を明確にしたペアでの教え合い学習」「第2学年、見本の動きとの違いを考える授業」

④掛川市立中央小学校

「ICTを活用して自己の課題解決を目指した授業」「Teamsを活用した反転学習」

〈協議での内容〉

・iPadの活用、ワークシートの活用、話し合いの視点、技能レベルに合わせたグループ決めについて

1 参加者数 教職員 (19 人)

一般(小・中教員以外) () 計 (19 人)

2 話し合いの内容

1. 横地小分会 小林大和 教諭

「ICTを活用した1・2年生の実践」

- ①春探しビンゴ iPad上のビンゴに写真を貼り付けてビンゴを完成させる。
 - ②あさがおの観察 ジャムボードの4つの窓に観察したことを書き込む。いつも同じ型で。
 - ③堀ノ内小とつながり、横地小の地域について伝えたいという子どもの思いをカタチに。
 - ④野菜の成長日記 「友達の日記にコメントしてもいいですか」という子どもからの言葉も。
 - ⑤おもちゃの作り方の説明書 糸電話の作り方の動画を見て、工程を写真で示す練習をした。
 - ⑥これまでのわたしこれからのわたし 自分の過去の写真をiPadに入れて、紛失を防ぐ。
- 低学年の児童が、思考ツールをもとに、ICTを活用して自分の思いをカタチにできた！

2. 原田小分会 細野雅希 教諭

「地域の材で行うリアル体験を柱にした総合的な学習の時間の授業づくり」

きっかけ 地域の材を発掘したい。過疎化の危機感が強いことを知る。原田のよさを伝えたい。

- ①農産物を知る インターネットには載っていない→「地域の人に聞こう」
- ②多好喜農園 いちご狩り体験→「栽培しよう」でも、苗作りのみ しいたけはコロナで白紙
- ③ドライレタスとの出会い 「どうやって作っているの?」「どうしてレタスでのりなの?」
- ④「ドライレタスを知ってほしい」→ 商品名、レシピ、キャラクター、動画をグループで。
- ⑤企画提案会 農家の方からご意見をいただき、販売活動まで。「収益はどうする?」

→子どもの意欲がカタチになり、ダイナミックな活動に。地域の材、プロの方は知識が豊富。

実践発表 横山先生

夏休み 課題とした「1-2-1の決り」

教師がその程度1-1-1の子どもの42/割合で

夏休みにして、どうなるか? どう準備して?

達成率、失敗率に注目 →

1年生を男の子

"自分たちも準備をして"

(西健)先生

6年生から中々行かず、前は25% → と思ふ前に、一歩 その活動

行なう子あり「自分たちもしてこれた人がいる」と自信

持てた。この体験 - 自己有用感を自信持て

↓
自己管理でき

実践発表 三原先生

悠然解(合唱)に合わせた歌の練習

個性

ゴールの設定 「心で」

個性

→ 練習を通じて

(3)を練習して「心で」(悠然解)で

個性

合奏形式 (合唱)

と、このように練習して、心で

練習して、心で

↓

活動を通じて **主体性** **自治力** **意欲**

子どもがやるべき 先生はアシ 正高

<効果> 主体性、1-2-1の決り、失敗を通じて行なう能力、課題意識

創り出す喜び、次=2-4年=3 → 伝統の継承

<課題> 母題とのつながり → 明確なゴール設定も課題

目標設定 - 課題を共有、自分たちで練習

先生が思っていた、夏休みの、1-2-1の決り、自分事、失敗

自治

分科会

<アドバイザーの先生からの指導・助言>

自分事

経験(いろいろなこと)に対して「何を感ずるの?」は難しい

「子どもが」

→ ~~自分事~~ 明確な具体的なイメージを持つ

例 (1) 空想とは...

「可視化する」

リーダー 7x7x7-

それ以外の立場で経験あり

学級の中に1人1番立場の子を中から選ぶ - 苦労する 種を蒔く

L: 2:1からわかる

2:1:2:1:2:1

自分探り Part 1 「Tactic」

活躍の場を考へる

教師の出席

うまくいっていない negative feedback, 子ども同士で見えたらよい

箱針盤

adviser

主体的な学び、対話的な学び → イメージ共有

特別支援教育 分科会

報告者(記録者) 赤星 亮太

- 1 参加者数 教職員()人
 一般(小・中教員以外)()人 計()人
- 2 話し合いの内容

自主研夏期集会 特別支援教育 記録

(体力がなく、不器用な子へのアプローチ方法の考察) 掛川市立上内田小学校 船渡川 真美

縄跳びの跳べないAくん→跳ぶ時に肩にセットして跳ぶ、セットして跳ぶを繰り返す。

手立て ・できていることを可視化する。・縄跳びができるようになるまでのプログラムを作る。(学習指導要領からプログラムを作る。体づくりなどを参考)

プログラムの工夫

- ・縄跳びだけを行うのではなく、体力向上の面からアプローチ→普段の動きから体力アップを意識する。(ぞうきんがけ、そうじの時間)
- ・楽しく体を動かす運動。
- ・手先を使った運動。
- ・幼児期運動指針ガイドブックの活用。
- ・環境づくり
- ・動作分析の確認。
- ・縄跳びの動作を分解→練習。(スモールステップでの目標設定)

成果 ・成功体験が増え、自信が持てるようになった。結果、跳べるようになった。

質疑応答(感想) ・行動目標がある(縄跳びをしたい)→縄跳びを練習する。ではできるようになるとは限らない。体作りをして、動き方を練習して・少しずつ改善していくことで、縄跳びにつながる。

浜松市発達相談支援センター ルピロ 臨床心理士 内山先生

(児童期から思春期の発達障害と発達支援)

根拠の上で行動する。それが間違っているでもOK。行動した時に根拠が反省材料になりうる。それを繰り返していくことで、学んでいく。できるまで待っていたら、寝るタイミングを逃す。(発達障害があるなら尚更。)寝るタイミングは、結果ではなく、過程。それならば確実に誰にでも寝ることができる。

神経系の発達。脳→脊髄(中枢神経)(体幹)→末端神経。手先が不器用→体幹から鍛える。

(発達障害あれこれ)

ASD(自閉症スペクトラム)、ADHD(注意欠陥多動性障害)、吃音トウレット症候群、SLD(特異的学習症)、これらを併せ持っている場合が多いので、診断名にこだわる必要はない。こだわってはいけない。

(IQで表される知能)

IQの平均値は90。しかし、クラスでは下位の子に当たる。さらに下の境界線の子は13%ほどクラスに存在する。その子らは何かしらの躓きを感じている。発達障害は中枢神経の発達の問題であり、性格や、育て方の問題ではない。課題を与えたときに、できない部分が多く出てきてしまうので、ネガティブな情報がその子に入りやすくなってしまふ。結果、自尊感情が低くなってしまふ。対応を間違えてしまふと、慢性的に叱責を積み重ねてしまふことになり、社会的不適合になってしまふケースもある。

(愛着問題と発達障害)

愛着・固体維持のための本能的な行動、養育者と近接を求めて接触を維持しようとする行動。→子供の社会情緒性を発達させる基盤。ある人物が特定の他者との間に結ぶ情緒的な絆。

判断がとても難しいものがある。専門家に任せて、指導に生かすことは考えない方が吉。

記録係

第72次自主研夏季集会 分科会報告書

両性の自立と平等を目指す教育 分科会

報告者(記録者) 石田 智子

- 1 参加者数 教職員 (13人)
一般 (1人) 計 (14人)

2 話し合いの内容

1 ジェンダーのアンケートの集計結果報告・考察

- ① ジェンダーに関する意識調査
(授業実践の有無、授業実践の必要性についての集計結果と考察)
- ② 学校内と学校外におけるジェンダーに関する課題とその事例、改善されている事例、取り組んでいることや意識していることの事例の紹介
- ③ ジェンダーに関する現場が抱えている悩み
<考察>
 - ・女性教員の授業実践率は高い。これは、女性部が中心となって実践を呼びかけてきた結果と言える。しかし、男性教員の実践率が低いので実施を促す工夫が必要である。
 - ・ジェンダーに関する授業の必要性を感じている教員の割合は一昨年度より高い。
 - ・男女にこだわらず、LGBTQの児童・生徒への対応や支援に関する問題(悩み)が表出している。

2 ジェンダーの視点に立った授業実践の発表

- | | | |
|--------------------|---------|-------------|
| ① 道徳「へんけんをもたない心」 | (小学1年生) | 掛川市立上内田小学校 |
| ② 道徳「へんけんをもたない心」 | (小学2年生) | 菊川市立小笠北小学校 |
| ③ 道徳「へんけんを持たない心」 | (小学2年生) | 掛川市立桜木小学校 |
| ④ 道徳「とくいなこと すきなこと」 | (小学2年生) | 掛川市立桜木小学校 |
| ⑤ 道徳「自分らしさを大切に」 | (小学2年生) | 菊川市立堀之内小学校 |
| ⑥ 道徳「わたしは わたし」 | (小学2年生) | 御前崎市立浜岡北小学校 |
| ⑦ 学活「職業観について考えよう」 | (小学6年生) | 掛川市立大坂小学校 |

3 講話 ～ジェンダーの視点に立った教育をすすめよう～

ファシリテーターズ静岡 代表 杉山恵子 様

■男女共同参画とは何か

- ・「性別役割分業」社会から「男女共同参画」社会へ

■「LGBT講座～性の多様性～ みんな違って、みんな良い！」

- 1 セクシャルマイノリティとLGBT (LGBTQ+)
- ① セクシャルマイノリティ (性的少数者) とは
 - ・現在の社会の中で、「こうあるべき」「これが普通」だと思われている「性のあり方」にあてはまらない人たちのことをまとめて指すことば
- ② LGBTQ (LGBTQ+)
- ・LGBTQ+とは、どのような人々なのか (スライドを使った具体的な説明)
上記の他にも多様な人々がいること具体。
※性は、男と女の2つではなく、多様であり、グラデーションになっている。
- ③ アウンティングとは
本人の了解を得ずに他の人に公にしている性的指向や性同一性等のひみつを暴露する行動のこと。これは、絶対にしてはいけない行為である。
- ④ 多様性とは
 - ・外見的 (表層的) な違い。内面的 (深層的) な違い。
- ⑤ 多様性を阻むアンコンシャスバイアスについて
 - ・無意識の偏見のこと ☆偏見を無くすためのキーワードは「決めつけない」
- 2 「ジェンダーフリー」と「ジェンダーレス」の違いについて
 - ・定義づけの説明

3 教師にできること

○カミングアウトに対して

- ・「まず聴く」「傾聴する」・・・味方になる
 - *全てを受けとめる「傾聴できる」精神力をもつ。・・・守秘義務
 - *「決めつけない対応」「決めつけない対話」
 - *「子供から信頼されている大人（教師）である」ということを自覚し対応する。
- ・本人に「どうしたい？」と本人の意向を聴くことが大事である。
 - *勝手に判断して他の職員に相談をしてはいけない。
 - *一人では抱えきれない場合、
「こんな人（養教、専門家）もいるけれど、どう？」
「家の人に話をするのは、どう？」等、本人の意向を必ず聞く。

○日常的にできること

- ・有事にそなえ「ネットワーク」を広げる。（専門家とのつながり）
- ・日常的に「男も女もなく同じである」ということを盛り込んでいく。
- ・子どもがジェンダーについて知ったことを「家の人（大人）に知らせてきてね。」と、大人に伝わるように働きかける。
- ・子供たちに「変わってきている社会のこと」を伝えるのは大変なことなので、第3者（専門家）に頼む方がよい。そして、教師はLGBTQ+の知識はもっていても、子供の驚きや素直な反応に共感してあげる。

4 質問

Q、「男の子・女の子」という見た目と、言動等が違うと感じた場合の対応は？

A、本人が言うまで見守る。

Q、保護者が「女の子としか遊ばない。おかしいと思いませんか？」と相談してきたことがあり、対応に困った。そういう時はどのように答えればよいのか？

A、「〇〇さんは、ただ楽しいから遊んでいるんじゃないですか。」と答えればよい。

感想等

【講話について】

- ・男女共同参画から「人間共同参画」という言葉で、ジェンダーの視点に立った考え方の深まりを感じた。
- ・「決めつけない」を大切にしたい。LGBTQ+など分からないことも多く、中途半端な知識で授業はできないと思っていたが、普段のちょっとした会話などで意識できることがあると思った。いろいろな方に聞いてほしい内容だった。
- ・正しい定義づけを学び直すことができ、知識が深まった。自分の中の「普通」をもう一度問い直すことができた。

【アンケート結果の報告などについて】

- ・男性教員の意識は高まっているが実践が伴っていないという報告に納得した。
- ・男性と女性の間で、まだ温度差があると思った。
- ・日々の授業で精一杯なところもあり、「ジェンダーに関する授業」実践は難しいと感じることもあるが、普段の生活の中で少しずつ意識してやっていくことも大切だと思った。
- ・「両性の～」「両性」この言葉自体がもう古いと言われてみて気づいた。
- ・まだ授業実践をしていないので、分科会でいただいた実践を学年にに応じて行ってみたいと思った。

【今後の研修・次年度に向けて】

- ・杉山先生の研修はとても勉強になる。
- ・ジェンダーについて学ぶ機会を続けていきたい。少人数が学んでも、少人数が発信すれば多くの人につながっていくと思う。
- ・他支部の実践例の紹介があってもよいかもしれない。
- ・コロナ禍では、集まって共有したり、考えたりするのは難しい。

- 1 参加者数 教職員(15人)
一般(小・中教員以外)(0人) 計(15人)
- 2 話し合いの内容

【テーマ】: 一人一台端末の活用法を共有する。

1. 発表① 原谷小 川隅先生 「みんなでつくるGIGAスクール」

学校職員の誰もがiPadを活用できるようにするための校内研修の実践。

・「とりあえずやってみよう(×紙の方がいい)」を合言葉に、職員の心持ちを変え、iPad活用の可能性を探る。

→「iPadのルール作りをみんなで行う」「情報についての研修を定期的に行う」「ICT支援員の方から他校の実践などを紹介してもらう」などの取り組みを行い、職員の「わからない」の壁を取り除く。

→校内の研修や会議にも積極的に一人一台のiPadで行い、教員自らがJamboardやclassroomなどの活用に慣れることで職員の「できない」の壁を取り除く。

・できる人、できた人が積極的に教える雰囲気をつくり、「みんなで覚える」という意識で活用の方法を学んでいく。

2. 発表② 岳洋中 加島先生 「情報モラル」

・今までは情報モラルに対して生徒指導的な位置づけで指導を行うことが多かったが、昨今「デジタルシティズンシップ」という考え方が広まっている。

→「情報技術の利用における適切で責任ある行動規範」を意味し、「やめよう」「危ない」という抑制的な考えから、「責任をもって使おう」という自律的な考えへの移行。

・岳洋中での取り組み

→ゲームを例に挙げ、オンラインの利点と欠点を考える。普段の顔を合わせたコミュニケーションとの違いを考えながら、より対面的なやりとりに近づけるにはどうしたらいいかを話し合う。

3. グループ協議(一人一台端末における自校での取り組みから見える ○成果や△課題)

①△情報を扱う環境(Wi-Fiや機材、職員の意識)が自治体、学校によって差がある。

△新しい取り組みが他方から降ってくるため、覚えることが多い。

②○端末を使った資料配付や課題提出は非常に効率的。

△子どもが授業の本質よりもタブレット操作に夢中になってしまうときがある。

③○親がclassroomに入り、子どもの様子や情報を見られるという活用法がある。

△配布物のデータと紙とのバランスを考えたい。(何でもデジタルが便利というわけではない)

民主的学校づくりと教育条件の整備 分科会

報告者(記録者) 大和田 貴宏

1 参加者数 教職員(9人)

一般(小・中教員以外)()人 計()人

2 話し合いの内容

1. 青年部アンケート「若手教師の悩み相談」について

- ・色々な悩みがある。(授業づくり、学級経営・生徒指導、保護者対応、職場の人間関係等)

- ・中には深刻な内容も見られた。「転職を考えている」「若手とベテランの対立が」等。

- ・今回の会で共有した取り組みを各自が青年部として職場に還元していきたい。

2. 各自の実践報告と討議

- 宿題の工夫について(児童生徒が主体的に取り組むためには、やらされ感を無くすには)

- 生徒指導について(心の満足感の与え方)

- ICT 機器や各種アプリの活用事例の紹介

- ・事前学習としての宿題は有効。自宅学習なので書くこと・考えることが遅い児童生徒もじっくりと自分のペースで考えをまとめて授業に臨むことができる。

- ・漢字ミニテストの実施。宿題の範囲から出題するので書き取りが単純作業にならない。

- ・家庭環境が複雑であったり感情の制御が苦手な生徒との関わり方。役割や居場所をしっかりと作り安心させる。褒めて認める。後手の対応で叱る指導になってしまわないように日頃から意識して積極的に関わり声を掛ける。特別な対応が他の児童生徒に不公平感を与えないように細かい配慮も大切。

- ・各種アプリは積極的に共有して取り入れていきたい。自治体や学校によって整備度に差があるのが難点。

宿題提出や資料配布がデータ化したことで業務量は軽減されたと思う。

- ・感覚的に使える ICT 機器は支援を要する児童生徒や集中力の続かない児童生徒にはとても効果的。ICT 活用の目的や効果を教師がきちんと考えておきたい。

教育条件の整備（事務） 分科会

報告者（記録者） 田中 紗友美

1 参加者数 教職員（20人）

一般（小・中教員以外）（2人） 計（22人）

2 話し合いの内容

(1) 部長あいさつ 寺畑事務職員部長
(2) 自己紹介
(3) 講話1「人事交流1年目上半期を振り返って」
講師 元 御前崎中学校 事務主任 山浦 裕人 様
・小笠高校での勤務、業務内容について
(4) 講話2「事務職員の働き方改革」 講師：静岡県議会議員 沢田 智文 様
・県教委「未来の学校「夢」プロジェクト」、国の働き方改革について
(5) グループ協議1「各市の共同学校事務室について」
・チーム活動の内容についての情報交換、成果や改善点について 等
(6) グループ協議2「職階を交えて情報交換」
・他市の様子、日常業務で困っていること、こうなったらいいなと思うことについて
・教員支援として取り組めるようなことについて 等
(7) アンケート記入

幼少の連携

分科会

報告者(記録者) 鈴木 拓朗

1 参加者数 教職員 (8 人)

一般(小・中教員以外) (1 人) 計 (9 人)

2 話し合いの内容

【発表1】 幼少の連携 ～提案～ 発表者 前島 康志先生

☆ ICT を活用した連携

① ミニ授業参観やミニ懇談会 → 学校でやっていることの情報流す。

② ミニ学習会 → 学校への理解を深める。

③ 保護者交流会 → 仲良しグループ以外とのつながりをつくる。

その他にも、zoom を用いた幼少の密な情報共有を行い、つなげていくことが重要。

【発表2】 幼児教育と学校教育の円滑な接続に向けて 発表者 笹瀬 大輔先生

小学校 → 3つの力 幼稚園はその基礎を育む。つまり1年生は0からのスタートではない。

円滑な接続のためには、双方の意識が必要。

幼稚園→10の姿で土台を作る。小学校→園での経験を思い出させながら、自覚的な学びにつなげる。

【発表3】 幼と小の円滑な接続を目指した小1教育の在り方 発表者 芥川 梓先生

園と小のギャップをなくす→できるだけ園と同じような流れで、子どもが自分でできるように見守る。

子どもの園での積み重ねと発達段階を配慮して活動を行う。(積み重ねを0にしない)

10の姿と関連付けた教科の指導→子どもの実態と10の姿を見てどこに重点を置くか決める。

→意識をすることで、子どもの捉え方が変わる。(なぜできない→ここまでできるのか!)

【発表4】 園・小のなめらかな連携 発表者 飯野 由美子先生

これから求められるスタートカリキュラム→生活科を中心に合科的・関連的な指導と弾力的な時間割の設定

連携のポイント ① 小学校側の意識の改革 ② 小学校が園へのアプローチ(互いに歩み寄る)

教育課程(加圧法)分科会

報告者(記録者) 櫻井 剛

- 1 参加者数 教職員 (9 人)
一般 (小・中教員以外) (0 人) 計 (9 人)

2 話し合いの内容

アンケートの結果をもとに、各校のカリキュラムについて話合った。

○ 行事について。(運動会)

コロナから1日開催から半日開催にしている。

しかし、保護者からは、コロナが終息したから元にもどすんでほしいという

TELが何件もきている。

○ 日課について

午前5時間制、給食が遅い、運動量が減った。

朝食はどうしているの？

行間の休時間はどうしているの？

○ 中学校の部活について

掛川市は数年後地域移行を目指している。

- 1 参加者数 教職員（ 12 人）
一般（小・中教員以外）（ 0 人） 計（ 12 人）

2 話し合いの内容

～箸についての基本的なことを知ろう～

- ①正しい箸の持ち方を知ろう。
②上の箸だけを動かすことが難しい場合のお箸名人カードを作ろう。
③自分に合った箸の長さを知ろう。

～実践してみよう～

- ①スポンジを箸でつぶして、スポンジに描いてある顔を変えよう
②大豆・ひじきをつかめるかな？
③スポンジを箸でつまんで積み木ゲームをしよう。
④箸の長さが違うと、つまみやすさに変化はあるのかな？
⑤タブーな箸の使い方をやってみて、日頃の箸の使い方の振り返りをしよう。

～実践をしてみて、意見交換～

- ・ 箸の使い方のタブーを詳しく知らなかった。特にお節料理を食べる際の逆さ箸や、揃え箸はあまり気にせずに行っていた。箸は日本の大切な文化なので、子どもたちにも折に触れて指導したい。
- ・ 学校で、箸の使い方の指導する時間はなかなかない。委員会活動のイベントでできれば良い。
- ・ 箸によって、使いやすさがある。自分に合った箸を選ぶことが大切だと感じた。（長さ・重さ・素材）
- ・ 自分に合った長さの箸があると、知らない人も多いと思う。家の人や子どもたちに広めていきたい。

子どもと楽しむ読み聞かせ 分科会

報告者（記録者）

佐藤

1 参加者数 教職員（ 20 人 ）

一般（小・中教員以外）（ 0 人 ） 計（ 20 人 ）

2 話し合いの内容

1 講話 高橋順子先生（桜木小学校 学校司書）

・読み聞かせに大切なこと

本の楽しさを味わわせることで、安心感、自己肯定力、想像力が育つ。

・選書のポイント

参考：「この本読んで」「特別支援学校での読み聞かせ」

・読み聞かせの仕方

・学校職員とボランティアの読み聞かせの違い

学校職員だからこそ隙間時間での読み聞かせや、本の貸し出しなどできる。

・高学年への読み聞かせ、本とのふれあい

共感できる本「おこだでませんように」

登場人物の心情が読み取れる本「にゃーご」「ぼくは川のように話す」

社会問題を題材にした本「むこうがわのあのこ」 など

→ 最後に簡単に読める本などで、楽しく終われるように工夫が必要。

2 読書タイム&ブックコート講習&しおり作り

それぞれ興味のある活動に参加した。

3 推進委員のおすすめ本の紹介 1人あたり3冊程度紹介した。